

(令和3年6月8日配布)

令和3年4月15日

(お知らせ)

変更

緊急事態宣言を受け
二条城が休城していたことにより、
公開期間を延長します。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、
内容が変更になる場合があります。

京都市文化市民局
担当：元離宮二条城事務所
TEL：075-841-0096

将軍の目線で御覧いただけます！

「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 令和3年度第1期

将軍から見た桜と山水 ～ 〈黒書院〉^{くろしょいん} 対面所の障壁画 ～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、年4期にわたり二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、第1期原画公開「将軍から見た桜と山水 ～ 〈黒書院〉対面所の障壁画～」の開催について詳細が決まりましたので、お知らせします。今回は、対面の際に将軍から見えていた二の間を中心に、桜と山水が描かれた障壁画を公開します。

是非、この機会に二条城へお越しく下さい。

1 会期

令和3年4月22日（木）~~～6月20日（日）〔60日間〕~~
～7月4日（日）〔37日間〕

※4月25日～5月31日は、二条城が休城していたため、公開していません。

2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分） ※二条城の入城受付は、午後4時まで。

3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館

（京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

4 入館料

100円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

5 公開作品

(1) 〈黒書院〉一の間・二の間障壁画《桜花雉子図（おうかきじず）》

〈黒書院〉一の間・二の間障壁画《楼閣山水図（ろうかくさんすいず）》（障壁画面数：42面）

(2) 解説及び見所 裏面のとおり

6 お問い合わせ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地

TEL：(075) 841-0096 FAX：(075) 802-6181

将軍から見た桜と山水 ～ 〈黒書院〉 対面所の障壁画 ～

二の丸御殿〈黒書院〉は、「小広間」とも呼ばれ、その一の間・二の間は、将軍と高位の公家や有力な武家の対面所として使用されました。今期の展示では、対面の際、将軍が見ていた二の間を中心に、障壁画の原画を公開します。この〈黒書院〉対面所の障壁画には、金箔地に鮮やかな彩色で、桜を中心とする春の景色を描く《桜下雉子図》と、墨と淡い彩色で、山々と水辺の風景を描く《楼閣山水図》があり、異なる技法とテーマの障壁画が併存しています。それは、ここが公的な対面所と私的な居室という相反する性格を併せ持つ場であること、和歌や水墨画という、当時の支配階級が嗜む教養に、徳川家の将軍も親しんでいることを対面相手に示すためだと考えられます。これらの障壁画が制作されたのは寛永3年（1626）。筆者について、《桜下雉子図》は、当時20歳の狩野尚信（1607-50）、《楼閣山水図》は、他の狩野派の絵師とされます。

この〈黒書院〉の対面所を使ったとされる将軍は、三代・徳川家光（1604-51）と、十五代・徳川慶喜（1837-1913）です。家光は、寛永11年（1634）、悪化した朝廷と幕府の関係を改善するために上洛し、ここで、細川家をはじめとする有力な大名や、親王を筆頭に大臣、門跡、撰家や、勅使など、高い身分の公家たちと対面しました。慶喜は、慶応3年（1867）10月12日、在京の側近たちに対し、政権を朝廷に返上する、いわゆる大政奉還の意向を伝えたとされます。幕府の権力を盤石にしようと努めた家光、幕府に終止符を打つ決意を側近たちに述べた慶喜、彼らの心中に思いをはせ、彼らが眺めた桜と山水の障壁画を楽しんでいたいただければ幸いです。



〈黒書院〉二の間障壁画《桜下雉子図》部分



〈黒書院〉二の間障壁画《楼閣山水図》部分